

「中臣祐範記」を読む②

「中臣祐範記」から見た近世初期の徳川政権と奈良

一般財団法人 氷室神社文化興隆財団

代表理事 大宮 守友 先生

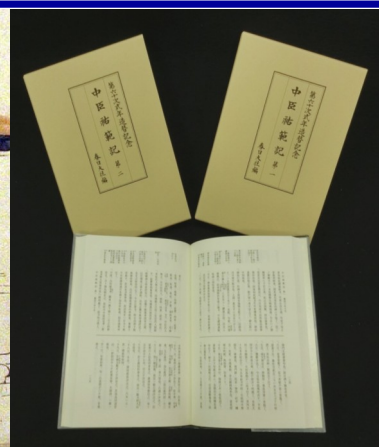
東地井祐範（1542～1623）は、春日社家の家に生まれ、戦国から江戸へと続く激動の時代に神社を支えてきました。文芸にも秀で、のちに春日社の「亀鑑」（お手本）と尊敬されています。

祐範の日記『中臣祐範記』は、慶長3年（1598）から元和9年（1623）までの25年間断続的に残っています。ちょうど豊臣政権と徳川政権が交代する時期で、徳川政権の支配の始まりの時期の様子がよくわかります。

そこで、彼の日記を通じて、徳川政権が春日社・興福寺を中心とする奈良地域にどのように立ち現れ、どのような政治的な対応をしていたかについて見ていきたいと思えます。



『春日祭絵巻』午御酒式（江戸時代）



『2巻まで発刊された
中臣祐範記』

日 時：平成29年9月10日（日）

午後1時開始

場 所：感謝共生の館

講 師：大宮守友先生（氷室神社文化興隆財団）

会 費：1,000円（当日受付でお納めください）

<当日の予定> 12:30 受付

13:00 講義

15:00 本殿参拝

16:00 終了予定

※当日の状況により予定内容を変更することがあります。

※ご参加の方は公共交通機関（バス・電車）をご利用ください。お車でお越しの場合は、別途駐車料金¥1,000が必要です。



【お申し込みはFAXかハガキ・お問い合わせはお電話で】

〒630-8212 奈良市春日野町160 春日大社 教化部（担当：中野）

TEL (0742) 22-7788

FAX (0742) 27-2114

春日大社の最新情報は <http://www.kasugataisha.or.jp> をcheck!